2010.11.5

第3種郵便物認可　朝日新聞（夕刊）　2010年(平成22年)11月5日　金曜日　4版　12

「みずき」への衝突

5巡視船「みずき」に近づく漁船

6衝突

7衝突後、遠ざかる漁船

動画投稿だれが、目的は

ユーチューブへ 4日に会員登録

「ユーチューブ」には、無料の会員登録をすれば、誰でも簡単に動画を投稿できる。

会員登録するには、①Eメールアドレス②住んでいる国や地域名③生年月日④性別―の4項目の情報を入力する必要があるが、免許証やクレジットカードなどを使った本人確認の手続きはなく、申告した生年月日や性別が本当かどうかも確認されない。Eメールアドレスも、いまではインターネット上で個人情報なしで簡単に取得できる。

今回の映像を最初に投稿したのは「sengoku38」というユーザー名で登録した人物とみられる。11月4日に会員登録され、年齢は「25歳」、国は「日本」と申告している。

登録情報などから投稿者を特定するには、ユーチューブ側の協力が不可欠だ。ユーチューブを傘下に持つグーグル広報は「警察、政府当局などしかるべきところから公式な要請があれば、捜査協力はする」と話す。ただ、すでに捜査協力への要請があったのか、映像を削除するよう依頼があったのかなどについては「答えられない」という。ユーチューブのサーバーは米国にあるため、日本の警察が単独で強制捜査に踏みきり、資料を押収することはできない。

ユーチューブの利用規約は、投稿された動画にポルノや「わいせつな素材」が含まれたり、テレビ番組をそのまま流して著作権法に違反したりしていると、事前の通知なく映像を削除することができると定めている。また外部からの指摘をうけて、ユーチューブ側が利用規約に違反していると判断すれば、通常は数分以内に削除するという。

ユーチューブ上では、すでに「sengoku38」の登録は「ユーザーが削除した」と表示され、最初に投稿された動画を見ることはできない。

ただ別のユーザーたちによって、映像は複製を繰り返されており、時間を追うごとに投稿数は増加。5日正午の段階で、ユーチューブには延べ52本が投稿され、関連動画の視聴は少なくとも約10万回にのぼる。海外へのアピールを狙ってか、英語や中国語で案内文が書かれた映像もある。ユーチューブ以外の動画サイトへの掲載も進んでいる。

■尖閣問題のこれまでの経緯

9月

- 7日　中国漁船が海保の巡視船2隻に衝突
- 8日　船長を公務執行妨害容疑で逮捕
- 11日　中国が9月中旬に開く予定だった日中政府の東シナ海ガス田開発の条約交渉を延期
- 13日　日本が船長を除く漁船の乗組員14人を帰国させる
- 17日　10月に日本への約1万人の団体旅行を予定していた中国企業が旅行を取りやめ
  ガス田「白樺（しらかば）」に、中国が掘削作業用機材を運び込んだことが明らかに
- 23日　新華社通信電で、フジタ社員4人が違法に軍事施設を撮影したとして取り調べ
  日本へのレアアース輸出禁止が明らかに
- 25日　那覇地検が中国人船長を処分保留で釈放し、船長は帰国
- 28日　レアアース禁輸措置解除が明らかに
- 30日　フジタ社員3人が解放

10月

- 5日　菅直人首相と中国の温家宝首相が会談。対話再開で合意
- 9日　フジタ社員の残り1人が解放
- 16日　中国・成都などで数千人の反日デモ

11月

- 1日　海保が衝突場面を収めた映像を衆参の予算委理事に公開
- 4日　海保の映像と見られる映像がネットに流出

対応を誤った

中嶋嶺雄・国際教養大学学長（現代中国学）の話

中国がどのように反応するかは未知数だが、かなりのリアクションをしてくると思う。インターネットを通じて、映像は全世界に流れる。このまま黙って静かにしていれば、中国国内での政府批判につながりかねないからだ。場合によっては、横浜市で開かれるアジア太平洋経済協力会議（APEC）をキャンセルしてくるかもしれない。漁船船長の逮捕段階で映像を公開していれば、問題はこれほどこじれなかった。対応を誤った菅内閣の責任は免れない。

ずさんな管理

危機管理コンサルタントの田中辰巳氏の話　ずさんな管理だ。政府は映像が流出したらどうなるかを深く考えていなかったとしか思えない。こういったビデオは現物だけにし、ダビングしたりネット経由で送ったりしては絶対にいけない。ダビングするならオリジナルに編集を加えるなど、どこから漏れたかを追跡できるようにしておくべきだ。管理ミスからの流出だとしても、中国は「日本政府が意図的に流した」ととる可能性がある。政府としては、強い決意で追跡し、流した人物を明らかにするしかない。

回収は不可能

ネット社会に詳しい評論家の歌田明弘氏の話　何者かが何らかの意思を持って流した可能性が高い。警察のものとみられる内部文書の流出が問題になったが、今回は誰でもアクセスできる動画サイトに流された点で、よりインパクトが強い。一度流れた映像は際限なく広がり、回収は不可能だ。コンピューターに詳しくなくても誰もが簡単にネットを使えるようになり、有効性も広く認識されるようになった。以前なら、内部告発でマスメディアに提供されていたような暴露情報も、今後はネットに流される傾向が広がるだろう。

計算資料見つからず

利根川基本高水　国交相が謝罪

利根川水系で200年に1度の大洪水が起きた時の最大流量（基本高水）を算出した資料が見つからない問題で、馬淵澄夫国土交通相は5日、再調査の結果、資料は存在しないと結論付けた。30年前に算出された基本高水の数値は2005年度にそのまま国の方針として踏襲されたが、馬淵国交相は「大変、すさんだった」とおわびした。

利根川水系の基本高水は、1980年に中流の群馬県伊勢崎市の八斗島で毎秒2万2千トンと計算され、八ツ場ダム（群馬県）を建設する最大の根拠とされてきた。05年度、国の審議会が新河川法に基づく利根川の河川整備方針を決めた際も、同じ数値が踏襲された。馬淵国交相は国の審議会で、十分な検証が行われなかったとして、「2万2千トンありきの検討を行った」と当時の国の判断を厳しく批判。その上で、「過去の資料がないことを問題にしたのではなく、利根川の治水計画の基本である基本高水の信頼性が揺らぎかねない問題だ」と語った。

今後、馬淵国交相は、過去の算出方法にとらわれず、ゼロベースで基本高水を再計算するよう指示したという。新たな基本高水は、国と八ツ場ダムの建設費を負担する6都県などでつくる検証の場で明らかにしていくという。

ハートレイ彗星　NASAが撮影

地球に接近中のハートレイ彗星に、米航空宇宙局（NASA）の探査機エポキシが日本時間4日夜、約700キロまで近づき、写真を撮った＝写真、NASA提供。長さ約2キロの彗星は、小惑星「イトカワ」のようなピーナツ状の形で、太陽に照らされて、激しく水分を噴きだしていた。

ハートレイ彗星は6年半で太陽を回っており、今年は地球に接近している。先月末に最も近づき、今月中旬まで地球と並走しながら徐々に離れていく。地上から見ると6等星ほどの明るさ。暗い場所へ行ったり、双眼鏡を使ったりすればよく見えそうだ。

エポキシは2005年、ディープインパクトの名前で打ち上げられた彗星探査機。

（東山正宜）

チリ落盤生還者　NYマラソンへ

【ニューヨーク＝村上浩史】チリの鉱山落盤事故で閉じ込められ、約700メートルに69日間閉じ込められ、10月に救出された33人の1人、エディソン・ペナさん(34)が4日、ニューヨークシティー・マラソン（7日開催）に一般ランナーとして出場することを、当地で行われた記者会見で表明した。ペナさんは救出を待つ間、作業用ブーツをスニーカーの長さに切り、作業用ヘルメットにかぶり、暗闇の坑道をほぼ毎日5～10キロ走っていたという。「生きている実感を忘れないために、走ることが必要だった」

■皇居で大綬章親授式

秋の叙勲の大綬章親授式が5日午前、皇居・宮殿「松の間」であり、受章者が天皇陛下から勲章を授与された。式に臨んだのは、元参院議長の扇千景（本名・林寛子）さん(77)ら。

■スタジオパーク改修へ

NHKは4日、東京・渋谷の放送センター内にあって一般開放送を行っている「NHKスタジオパーク」を来年4月から9月まで休館にすると発表した。展示内容や施設を新するため。

■スリーデーマーチ開幕

国内最大のウオーキング大会「第33回日本スリーデーマーチ」（日本ウオーキング協会、埼玉県、東松山市、朝日新聞社主催）が5日、埼玉県東松山市を主会場に始まった。丘陵や清流沿いを散策する3日間の催し。

初日のコースは同市から北西方向をめぐる「和紙の里・武蔵嵐山ルート」（50～5キロ）など。晩秋の柔らかな日差しを浴び、参加者たちは早朝から里山の小道を軽やかに歩いた。